

## 第47回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:令和6年11月28日(木曜日) 9:30~11:00
- 場 所:仙台市役所本庁舎8階 第2委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、大場 秀行 委員  
西城 あや 委員、佐々木 方明 委員、笹村 欣司 委員  
佐藤 奈緒子 委員、多田 千佳 委員、豊嶋 純一 委員  
中嶋 紀世生 委員、谷田貝 泰子 委員、山本 琴枝 委員
- 欠席委員:一井 利光 委員、岩崎 雄一郎 委員、田名部 一朗 委員
- 事務局:建設局百年の杜推進部百年の杜推進課
- 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
  - (1) 広瀬川創生プラン2025-2034 のポイントについて
  - (2) 広瀬川創生プラン2025-2034 骨子(案)について
  - (3) 広瀬川創生プラン2025-2034 改定のスケジュールについて
4. そ の 他
5. 閉 会

### ■ 要 旨:

広瀬川創生プラン2025-2034の骨子(案)の内容について了承され、検討項目として追加となった一部事項については、次回ワーキンググループで検討を行い最終案に反映させることとなった。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（百年の杜推進課 水嶋課長）

ただ今より「第47回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める百年の杜推進課長の水嶋である。

=配布資料の確認=

2. 挨拶

○司会（百年の杜推進課 水嶋課長）

はじめに、建設局長の佐藤が本日所用により急遽欠席のため、建設局次長の甲野藤よりご挨拶申し上げます。

○甲野藤建設局次長

皆様、おはようございます。建設局次長の甲野藤である。建設局長の佐藤が所用により欠席のため、私からご挨拶申し上げます。

前回5月に開催された広瀬川創生プラン策定推進協議会（以下「協議会」という。）において、次期、広瀬川創生プラン（以下「プラン」という。）の改定に際し皆様から多岐にわたるご意見をいただき感謝申し上げます。また、前回の協議会では「広瀬川創生プラン改定検討ワーキンググループ」（以下「WG」という。）を設置し検討を行いたいという事務局からの提案をご承認いただき、これまで計3回のWGで協議を重ねていただいた。そして、プラン改定の様々な方向性・視点を組み込んでいただき、今回WGの成果を踏まえ、次期プランの改定の骨子をお示しできる段階となった。本日は、その骨子をお示するとともに、更なる皆様の忌憚のないご意見をいただき、より良いプランにしていきたいと考えている。本日はどうぞよろしくお願いしたい。

○司会（百年の杜推進課 水嶋課長）

本日、国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 流域治水課長の一井 利光委員、東北電力株式会社宮城支店 広報担当部長の岩崎 雄一郎委員、宮城県仙台土木事務所 河川部河川砂防第一班 技術主幹（班長）の田名部 一朗委員は、所用により欠席とのご連絡をいただいている。仙台市側の出席者については、お手元の席次表をご覧ください。

本日、出席委員が全委員の過半数に達しているため、会議が成立していることを報告する。

3. 議事

○司会（百年の杜推進課 水嶋課長）

以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

### ○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で西城委員にお願いしたいが、よろしいか。

=西城委員了承=

それでは次第に沿って進めさせていただく。

議事(1)「広瀬川創生プラン2025-2034 のポイントについて」、前回協議会の振り返りとワーキンググループの開催状況について、ワーキンググループメンバー5名を代表して私から説明する。

資料1(1ページ目・2ページ目「(1)基本理念・基本目標の確認について」)に沿って、前回協議会の振り返りとワーキンググループの開催状況について説明。

引き続き、ワーキンググループでの検討を踏まえた、改定の各ポイントについての説明を、事務局よりお願いしたい。

### ○事務局(百年の杜推進課 庄司主幹兼広瀬川創生係長)

資料1(2ページ目「(2)推進体制について」)に沿って、改定のポイントについて説明。

### ○小祝会長

各委員にはWGの議事録が届いているかと思うが、それを踏まえ、まず、「(2)推進体制について」、ご意見や確認事項のある委員はいるか。

### ○笹村委員

推進体制の図の下の部分で、これまでは仙台市と協議会との間に相互連携の青い矢印を入れていたが、WGの議事録からも、敢えて今回外したとは思いますが、そうすると協議会と仙台市が連携しているイメージが湧かないかなと思った。これは橙色の丸囲みで一体化するような表現とし、連携が取れているという見方をしようという考えで良いか。

### ○事務局

お見込みの通り。相互連携しているという意味合いで丸囲みとしている。WGの中では矢印にするという案もあったが、矢印というよりもむしろイコールなのではないか等、様々な意見

が出たが、ひとつの枠として囲った方が一番分かりやすいのではないかと考え、このような表現としている。

○小祝会長

より強力に、一体化という意味合いのイメージと考えていた。

○笹村委員

見た目の問題だが、どちらかというとなが市から黄色と赤色の矢印が出ていて、協議会からは何も矢印が出ていないという雰囲気になっていると思った。例えば、少し矢印の位置をずらす、真ん中から出すなどした方が、見た目でも分かりやすくなるのかなと思う。

○小祝会長

それではご意見を参考に、事務局で修正をお願いしたい。

○事務局

承知した。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。無いようであれば、引き続き、改定のポイントについての説明を、事務局よりお願いしたい。

○事務局（百年の杜推進課 庄司主幹兼広瀬川創生係長）

資料1（4ページ目「(3) 重点事業認定の基本的な考え方について」）に沿って、改定のポイントについて説明。

○小祝会長

ただ今の資料1「(3) 重点事業認定の基本的な考え方について」、ご意見や確認事項のある委員はいるか。

＝一同了承＝

○小祝会長

無いようであれば、引き続き、改定のポイントについての説明を、事務局よりお願いしたい。

○事務局（百年の杜推進課 庄司主幹兼広瀬川創生係長）

資料1（6ページ目「(4) 施策の方向について」）に沿って、改定のポイントについて説明。

### ○小祝会長

ただ今の資料1「(4) 施策の方向について」、ご意見や確認事項のある委員はいるか。

### ○山本委員

事前に送付されたWGの資料の中で、作並かっぱ祭りが無くなり、その後復活していないという記載があったが、今後も復活はしないのか、或いは暫く休止ということなのか。

### ○事務局

先ほど推進体制でお話した広瀬川市民会議が作並かっぱ祭り実施の中心だったが、まずは団体の再建に力を入れ、今後、団体の活動が上手く回るようになった時点で、大型イベントである広瀬川で遊ぼうや作並かっぱ祭りの再開も含めて検討していきたいと考えているが、時期的にはまだまだ先になると考えている。

### ○小祝会長

他に何か意見はあるか。

### ○谷田貝委員

施策の方向④の例に「河川教育」という単語が新しく入っているが、どのような内容なのか。

### ○小田会長代理

ワーキンググループで私も交えて議論させていただいたので、私から説明する。

私は日本河川教育学会の理事を務めさせていただいており、河川に親しむ教育をどんどん進めていく必要があると考えている。特に、小中学校の理科で5年生あたりに「流れる水の働き」という授業を行うが、そのあたりから河川に親しむことや自然の恩恵、河川が作るまちというもの学ぶことでより知識を深めていくと同時に、昨今、河川を巡る自然災害も多いので、防災や水辺の安全も含め広くカリキュラムを構築して、河川教育というものを位置づけようという全国的な動きがある。WGの中では「環境教育」という言葉も出たが、敢えて「河川教育」という言葉を入れるということで、ひとまずWGでは落ち着き、今回反映させていただいた。まだまだ知られてない取組みなので、認知させる一つのきっかけにさせていただければと思う。

### ○小祝会長

他に何か意見はあるか。無いようであれば、引き続き、改定のポイントについての説明を、事務局よりお願いしたい。

### ○事務局（百年の杜推進課 庄司主幹兼広瀬川創生係長）

資料1（9ページ目「(5) その他変更点について」に沿って、改定のポイントについて説明。

### ○小祝会長

ただ今の資料1「(5) その他変更点について」、ご意見や確認事項のある委員はいるか。

### ○多田委員

「広瀬川創生プランの推進状況の評価」とは、このプラン全体の評価という意味か。

### ○事務局

お見込みの通り。具体的には、まず1年ごとに実施された取組事業について調べ、協議会に報告し、それを毎年繰り返して、最終的に取組事業数の変化などに着目した評価を行い、次期プランに反映させるという進め方を行っている。一方で、進行管理については、一般的に目標の数値を設定し、その目標に向かって取組みを進めていき、進捗が悪い場合は随時改善していくことで目標を達成できるように調整していくという流れになる。現状は進行管理というよりは、計画期間を通じた評価をしているのが実情だと考えており、実情に合わせて名称を変更した方が良いのではないかと考え、今回提案させていただいた。

### ○多田委員

全体的に評価する形の評価方法なのか、施策の方向①から⑩までをそれぞれ細かく評価して改善していく形の評価方法なのかという点と、重点事業に認定され負担金のサポートで進めている団体と完全にボランティアで進めている団体があるが、負担金でサポートされている団体は評価が必要だと思うが、ボランティアで広瀬川を良くしようと思って実施している団体に対して同じような評価方法を採用すると、折角、広瀬川のことをボランティアで実施しているのに何か厳しい感じがする点の、2点が気になった。この辺りの説明をもう少し具体的に書いた方が良いのかなと思う。評価されてしまうのであれば、活動しないとか、或いは活動団体として登録せずに、自由に身内だけでやれば良いと考える団体もいるのではと思う。

### ○事務局

確かに、このページの評価方法があまり具体的ではないので、もう少し具体的になるようにもう一度表現等を検討する。

### ○多田委員

アンケート結果を指標に取り入れるということだが、アンケート自体は市民がどう考えているかの非常に重要な情報なので取り入れること自体は良いと思うが、私もアンケート調査の専門家ではないためよく分からない部分もあるが、アンケート調査は、その方法によって出てくる結果が結構違うと思われるため、単に評価に加えていくというのは少しざっくりし過ぎていると感じる。施策の方向①から⑩の評価に見合うアンケート内容となっているかなど、専門家に見ていただいた方が良いと思う。アンケート結果を評価に取り入れるのであれば、その辺りも丁寧にいった方が、アンケート結果がより良いプランに繋がる情報になると思う。

### ○小祝会長

ただ今のご意見等も踏まえ、次回のWGで検討したいと思う。事務局から何か補足説明などはあるか。

### ○事務局

市民意識調査は市民が広瀬川に対してどのような思いをお持ちになっているかという全体的な調査であるが、それとは別に、もう1つ活動団体へのアンケート調査も今回実施している。今後とも、これらを両方活用しつつ評価していきたいと考えている。

### ○小祝会長

引き続きよろしくお願ひしたい。他に何か意見はあるか。

### ○豊嶋委員

行政計画では一時期、PDCAサイクルをほとんどの計画に入れていた。プランは他の行政計画と性質が違うというところは、WGでも話が出たし、仙台市も認識されていると思うが、プランにはPDCAサイクル自体がそぐわないと思う。基本的には、計画とその結果が対一になるものしかPDCAサイクルは載せないものである。しかしながら、このプランでは、計画の策定主体以外の他の主体が行っている事業も載せているので、その場合よく使われるものとして「OODAサイクル」がある。これはマーケティングの用語だが、まず、『Observe（観察）』が最初に来て、そこからどう方向性を見出していくのかという流れとなる。色々な人がどんなことをやっているかを観察するところから始めているようなプランなので、それを集めて方向性を作っていくということだと、PDCAサイクルというよりはOODAサイクルに近いのかなという印象を持っている。PDCA・OODAの両方をサイクルとして回すこともあるので、その辺は少し勉強が必要かと思う。

もう1点、施策の方向に関する説明の中で、活動団体が連携・協力することにより取組事業の件数が減ってしまうという説明があったが、この施策の方向ごとの取組事業の件数は、他の施策の方向の番号と重複しても良い数え方をしているため、例えば、連携・協力したらその事業を施策の方向⑩「市民参画型事業の推進」へ加え、また、併せて別の施策の方向にも加えるという方法を取れば、そこまで数は減らないと考える。他のところが減ったとしても連携・協力を促すことで増えていくという形になるので、数え方次第かと思う。

### ○小祝会長

ただ今のご意見等も踏まえ、評価方法については次回のWGで検討したいと思う。また、豊嶋委員からのご意見について、事務局から何かあるか。

### ○事務局

OODAサイクルについては、詳しく存じ上げていなかった。1度持ち帰って勉強させてい

ただいて、今後の評価の仕方について考えたい。

#### ○小祝会長

他に何か意見はあるか。

#### ○谷田貝委員

11の施策の方向はあるが、一方で、この施策の方向における活動をいくつにしたいなどがある訳ではなく、このような感じで活動が色々と行われていますという、現状の把握、傾向の把握のようなものかと思う。どの施策の方向の取組事業の件数を増やしたいとか、或いはどの施策の方向がこうでなければならぬという話では無いため、PDCAサイクルがそぐわないという先ほどの話は、私自身もそうだと思うので、この辺りを少し考えていくのが良いかなと思う。

#### ○小祝会長

3名の委員からのご意見等は、どれも共通して評価方法のあり方についての内容となるため、ご意見を踏まえ、次回WGの検討に繋げたいと思う。他に何か意見はあるか。

#### ○大場委員

評価の話について、アンケート結果を取り入れるとのことだが、過去の結果を見ると大体10年に1回程度しか調査は行われていないようだが、今後施策や事業についての指標にアンケート結果を取り入れていこうとすると、もう少し頻繁にアンケートを行うことになるのかなと思ったが、その辺はどうお考えか。

#### ○事務局

現状の考えでは、市民意識調査は広瀬川に対する全体像について市民の意識がどう変化しているかの調査のため、プランの計画期間が終わる10年ごとに1回の実施を考えている。また、その他の活動団体へのアンケート調査は1年に1回とするかなど、具体的なことはまだ言えないが、市民意識調査と違って頻繁にやっていきたいと考えている。

#### ○小祝会長

他に何か意見はあるか。無いようであれば、以上で議事(1)「広瀬川創生プラン2025-2034のポイントについて」は、これでご承認いただいたということにする。

引き続き、議事(2)「広瀬川創生プラン2025-2034 骨子(案)について」、事務局より説明をお願いしたい。

#### ○事務局(広瀬川創生係 伏見主任)

資料2-1、資料2-2に沿って、「広瀬川創生プラン2025-2034 骨子(案)について」を説明。

### ○小祝会長

ただ今の資料 2-1、資料 2-2 の「広瀬川創生プラン 2025-2034 骨子（案）について」、先ほどの議事（1）では各ポイントの中身についてご意見をいただいたが、ここでは冊子全体の構成について確認事項があればお願いしたい。

### ○豊嶋委員

計画期間が 2034 年までとなっているが、SDGs の取り扱いをどうするか少し疑問がある。どこかに記載は必要だとは思いますが、現在の構成案では「基本目標と施策の方向」全体に関わるものという位置づけで記載されているが、一方で仙台市の計画の中に「仙台市 SDGs 未来都市計画」というものがあるので、関連する計画にそういったものがありますよという紹介に留めるというのも 1 つの方法ではないかと思う。私も SDGs が 2030 年以降どうなっていくかがよく分かっていないため、委員の中で詳しい方がいれば、お知恵を拝借出来ればと思う。

### ○小祝会長

SDGs の目標年度は 2030 年だが、それは SDGs としての目標年度で、理念としては継続すると考える。ただ今の豊嶋委員のご指摘は中身についての内容になるため、次回 WG で先ほどの議事（1）の内容と一緒に検討したい。

先ほどもお願いしたが、この議事では全体の構成がこれで良いのかということを確認いただきたいと考えている。他に何か意見はあるか。

### ○多田委員

施策の方向④「広瀬川に関する学びの推進」は、施策の方向⑧「市民への情報発信」や施策の方向⑨「広瀬川に関する催しの実施」と近いと思うので、施策の方向④は施策の方向⑧、⑨と同じ『基本目標 iv 河川への関心向上』に入れても良いと感じた。

### ○小祝会長

そうしてしまうと、根本的なそもそも論のところから、基本目標 ii と基本目標 iv の関係を改めて議論するということになるが、最初に申し上げたとおり、基本理念と基本目標は踏襲するという事になっており、施策の方向についても先ほど議事（1）でご承認をいただいている。中身の具体的な推進内容や事業の内容については、この施策の方向④、⑧、⑨に分類して評価の方でそれらをきちんとやっていくということが現実的と考えるが、事務局から何か補足はあるか。

### ○事務局

施策の方向④「広瀬川に関する学びの推進」で目指しているのは、基本目標 ii の『河川と共にある暮らしの実現』のために学びの場を設け関心を持っていただきたいということもあるが、学びを推進することで、実際に河川に行って学ぶようなイメージもあるため、基本目標 ii の方

に入れている。確かに、広瀬川に関して学べば関心も向上するというご意見も当然あるとは思いますが、できれば基本目標 ii の方に入れておきたいというのが事務局としての意見である。

#### ○小田会長代理

確かに重なる部分が気になるという多田委員のご発言はよく理解できるが、よく「教育」と「啓発」というのが結構重なって、市民に対する啓発とか、子供に対する教育や学習みたいなもので、やはりどうしてもやる中身と目指すものを完全に切り分けるというのは少し難しいと思う。この施策の方向の番号を全体的に変えることは少し難しいかもしれないが、実践面において留意して整理していくということになるかと思う。

#### ○小祝会長

先ほど、議事（１）、資料１の８ページ目における施策の方向ごとの取組事業数において、内容を評価しながら、どの施策の方向に整理していくかを調整していくということになると考えるため、施策の方向の項目立てとしてはこのまま継続するというWGの考えについて、先ほど議事（１）でも議論いただき、継承するという事で承認を受けたため、後は個別の内容として対応したいと考えている。

他に何か意見はあるか。

#### ○谷田貝委員

序章は「広瀬川創生プランとは」から始まっているが、第１章の「広瀬川の魅力」から始めるべきではないか。広瀬川が大事なものなのでという説明が最初にあって、プランがあるという流れになる方が良いと思う。

#### ○事務局

構成については、もう１度検討したい。

#### ○小祝会長

他に何か意見はあるか。無いようであれば、以上が議事（２）「広瀬川創生プラン2025-2034 骨子（案）について」となるが、承認いただいたということにする。

引き続き、議事（３）「広瀬川創生プラン2025-2034 改定のスケジュールについて」、事務局より説明をお願いしたい。

#### ○事務局（百年の杜推進課 庄司主幹兼広瀬川創生係長）

資料３に沿って、「広瀬川創生プラン 2025-2034 改定のスケジュールについて」を説明。

#### ○小祝会長

今後年明けにWGが開催されるため、参加される委員はご確認いただきたい。また、WGでの検討を踏まえた最終案の確認を、各委員にお願いすることとなるため、ご協力をお願いした

い。本日各委員からいただいた大切なご意見を、次回WGで検討し、最終案に反映させたいと思う。

以上、議事についてはここまでとする。

#### 4. その他

##### ○小祝会長

本日の議事は以上となるが、その他に委員からご意見、ご質問等はあるか。

無いようであれば、「4. その他」についてはこれで終了する。

#### 5. 閉会

##### ○小祝会長

これまでの委員からのご意見等について、事務局でまとめていただき議事録にて確認することとする。

本日の議事はこれで終了とし、進行を事務局にお返しする。

##### ○司会（百年の杜推進課 水嶋課長）

議事の進行に感謝申し上げます。

今後のスケジュールでは、1月に第4回ワーキンググループを、また、3月に第48回協議会をそれぞれ開催予定だが、日程など詳細が決定した後、事務局より委員の皆様へご案内させていただきます。

以上をもって、「第47回広瀬川創生プラン策定推進協議会」の一切を終了する。

以 上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 \_\_\_\_\_ (印)

委員 \_\_\_\_\_ (印)